

## インパチエンスネクロティックスポットウイルス (INSV) による リンドウえそ斑紋病 (新病害) の発生

鉢物リンドウの あおこりん と ももこりん において、葉に退緑斑紋やえそを伴う症状が発生しました。原因究明の結果、インパチエンスネクロティックスポットウイルス (INSV) による新病害であったので、病名をリンドウえそ斑紋病と命名しました。

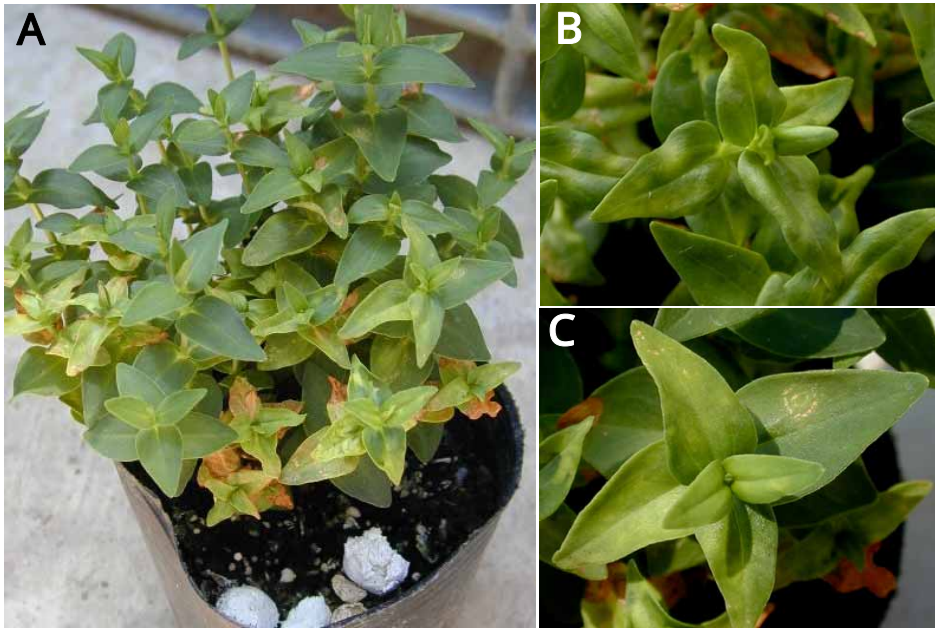


写真 リンドウえそ斑紋病の病徴

株全体での発生はまれで、茎立ちした数本の茎葉に発生します。下位葉から発生し、展葉とともに上位葉へと進展します (写真A)。はじめ葉に退緑斑を生じ (写真B)、後にえそ斑紋を形成します (写真C)。

### 発生時期

採穂用親株の加温開始2ヶ月後(3月、採穂時期)頃から6月まで発生がみられます。

### 病原と伝染

- (1) 病原ウイルス (INSV) は、広い寄主範囲をもち、主に施設栽培の花き植物 (インパチエンス、シクラメン、トルコギキョウ等) に発生し、葉にえそ、退緑およびモザイク症状を生じます。
- (2) ミカンキロアザミウマなどのアザミウマ類が媒介するとされています。
- (3) 保毒親株からの栄養繁殖で被害が拡大すると考えられます。

### 当面の防除対策

親株の更新を行うとともに、アザミウマ類の防除 (薬剤散布、圃場内外の雑草や不必要な花き類等の処分) を徹底してください。

### その他

INSV は、多くの施設花きに被害をもたらすため、リンドウだけでなく他作物でも今後の発生に注意が必要です。